



発行日：平成 25 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 15 回海部会WGを開催しました！

11 月 27 日に第 15 回海部会 WG を開催しました。矢作ダムにて流入土砂の状況、榊野地区にて土砂受入地の状況を見学しました。その後、見学結果について、意見交換を行いました。



日時：H25 年 11 月 27 日(水) 10:00~17:30
活動場所：矢作ダム上流及び土砂受入地（榊野地区）
参加者：21 名（事務局含む）

◆主な活動・会議内容

1：矢作ダムにて流入土砂の状況を見学しました



矢作ダムにて流入土砂の状況、土砂受入地の榊野地区にて受入の状況を見学しました。



貯砂ダム下流恵那市側の土砂搬出箇所の見学

《現地での説明》
・土砂の採取は水位の低い冬場に行う。
・年間土砂流入量は 30 万 m³ で検討している。
・そのうち、砂利採取による掘削は 5 ~ 6 万 m³ である。



榊野地区土砂受入地（掘削土砂の有効利用箇所）の見学

《現地での説明》
・矢作ダムが土砂をここまで運んできている。
・最終的には豊田市の公園予定地である。
・堆砂バイパス計画については未定である。



貯砂ダム上流豊田市側の土砂搬出箇所の見学



土砂搬出の様子

《現地での説明》
・ここでは、2~3 万 m³ を重機で掘削している。
・堆砂は毎年予算を確保して除去している。
・堆砂は国有財産扱いであり、民利用は難しい。

2：帰りのバスの中でふりかえりを行いました



見学後、帰りのバスの中で、見学の感想や海部会としての活動について意見交換を行いました。

【主な内容】

- 海では砂を欲しがっているのに、山では土砂が邪魔ものであるように感じ、今の土砂収支の矛盾を感じた。
- 砂の運搬にはお金がかかるが、利用者負担で使わせてもらえないか。
- 利用にお金が必要ならば、運搬のお金はどのくらいかかるのか、知りたい。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iijnet.or.jp) までお送りください。



◆ふりかえりでの主な意見

①流入土砂見学の感想

- 海では砂を欲しがっているのに、山では土砂が邪魔ものであるように感じた。(青木)
- 有効利用地がもったいないと感じた。榊野地区の要望もあるのかもしれないが、公園になる予定だと聞いたが、難しいのではないか。(鈴木)
- 今の土砂収支の矛盾を感じた。運ぶお金を何とか捻出しないと、海も川もだめになってしまうと思う。(鈴木)
- 正直、矢作ダム流入土砂はいい砂だと思った。あの砂をあそこに置いておくのはもったいない。少し、中小洪水を流してみてもどうか。(本守)
- 矢作ダムでは、水温と濁度による選択取水を行っているということだった。水温と濁度が矛盾した時はどうなるのかと聞いたが、下流に行くのがシルト粘土だと困る。(井上)
- バックホーが直接川に入って浚渫作業を行うことは、矢作川沿岸水質保全対策協議会の立場からは賛同できないが、実際に砂利採取の状況が見学できて良かった。(植村)

②砂の利用について

- オーストラリアの珪砂 2m³を購入したとき、砂代 75000 円、運賃 75000 円かかった。砂を運ぶのはお金がかかるが、やる気になればできると思う。ダムの砂を使った人工干潟の実験をこのWGで実験的にできないか。(青木)
- あれだけの砂を捨てるなら、利用者負担で使わせてもらえないか。最低でも、試験くらいはやらせてほしい。(高橋)
- 豊川も砂がない。矢作の砂については、他の部会でも意見を聞いている。必要なところに必要な砂を。(松井)
- 今日、砂を実際に見たら砂質で、干潟実験ができそうだと思った。お金はかかるが、何とかできるのではないか。(藤田)
- 砂は干潟に適していた。利用にお金が必要ならば、運搬のお金はどのくらいかかるのか、議論してもらいたい。(柳原)
- 人が起こしたことなので、人が対処する必要がある。試験所でもダムの砂で実験を行っており、粒径がよい。いろいろなものが混ざったものを分級して使用するのが良い。(蒲原)
- アサリの繁殖には、いい砂だったと思う。知事が言っているときに、やらなければトーンが下がってしまう。(石川)

③その他

- 矢作川、豊川の河口に干潟ができてこず、貧酸素が問題視されている。さらに、底生生物が少なくなってきた。少しでも減らす方法を考えたい。砂はほしいが、お金がかかる。お金がかからないように、貧酸素の問題を考えられないか。(石川)
- 海にとって、貧酸素よりも硫化水素が出るの方が影響が大きい。上流でやらなければいけない問題も海でやりたい。(井上)
- 若い人が海に関心がない。意識を統一できるような土壌、風土を作っていかなければいけないと思う。(橋本)



ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。



よかったことと思うこと

関係者間での情報共有ができた。/パンフレットで選択取水・砂排出のためのバイパス等、施策として採用されている技術情報が入手できた。

気づき

三河湾の渴望している砂が、有効活用と言いながら、現実には処分ということが、よく分かった。

今後取り組んでいきたい活動など

陸域でできること、海域でしかできないことに留意しながら、二枚貝資源にとっての衣食住問題の現状とあるべき姿を話し合いたい。

今後のスケジュール (予定)



次回 海部会第 16 回 WG を 12 月 26 日 (木)、海の地域部会を 1 月 14 日 (火) に開催します
今年度の活動のとりまとめを行い、来年度の活動方針について意見交換を行います。

